

百物誌評判

叁

2289



百把渡評刺事之目録

好文堂

才一 冬別が茂那長奥門おれ松童子又化事

才二 天狗の少汰付涉る獄来聞持の事

才三 銭神の事付省陌の事

才四 貧乏神并韓退之送窮文付范文正公の事

才五 山姥の事付一休の物語再狂言の事

才六 比叡山中堂油盗人ト云化附付事

才七



2



才八

佐々木宗高のてゝやたるの付親の事

百拙河原利事之三

才一

名刺松原長興寺門前松童子にける

此の人此のく某生ある河原く山原の國に  
ぬきなる事ゆりし加茂郡に生あるとて寺あり  
門前にじしある松二本山原く此れくちにはけり  
をきけ人なれば松二龍松とてけけ松太本に  
いづれ時より松をけしものなるけけり寺  
へ童子二人ありて云ふく日あるいづれ者かくいふ  
松子此傳をて硯紙にけりて不則硯に粉紙をて  
て出づる一書此松白紙にけけり



客路三川風露秋

袈裟一角事勝旋

二龍松樹千年寺

古殿苔深僧白頭

は侍候きさむくゆりききハ寺僧あはれみくもねて  
さねえん彼門あはれ松の本陰よむとんて跡く  
なかりけきハ皆人松の精れ童子となりきるハ侍  
ちちといふ人といひけきハ先主神あきいしくハ事既  
あさぬのりに付くもたぬはねうりさねとね情乃  
馬情不化とも事ハ化生とナうして月あにき  
ろろりなり朽る本れ蝶もなりくくする草れ堂に愛  
まゆ事何きとんのおふゆなり跡更ねる象本れ長

中く子久き地ながらゆき君子此處にひくくき童みに  
成んともあんにじ既童子とぬるうハ寺れはより  
に任まのなれば詩をばくくくふハ何くはなき相  
の本れ人ふ愛しきに既智通とに出家れといひけ  
事と海にじき書ふとんてり

才二 道陸神の發的此事

先主れきく世人のいふあるき陸神さるハ道祖神也  
又ハ祖れきと云き海源のけくなりハ事既けの神  
なりハ傳は祖れと云きと云き神と云きなり侍り和歩にき  
ちありハ神なりとあり袖中抄ふ云きなりハ神と云き



ひなり貴く多にまゐりて此の神にぬじり  
ぬきのひうせやまふとふかんて後り隠岐の國知  
史利の夢とふあまもこの宮の神なり  
とあり古今の序に逢坂ふま向せける水信と  
けりなりもりにしに天皇帝の子孫祖と云ふ人を  
とぬくはに死のいひは後の世にのりて神  
とありやと云ふとあるがら天皇帝の子孫祖と云ふ  
衆とにいひてはとけきと和法とにきわむ  
いふなりとけきとの世に思ふと衆と女童の云  
なりしに信るはにけきと石佛と云ふは信と

は人成衆と世に衆とありはとけきと中首の  
とありなと人のあはれ石と云ふは必仏と云ふ  
てそとに亡者此は名成と云ふなりとけきと名号  
とありはとけきとけきの法名なと天皇帝の隠  
るそと消せゆに佛断中衆とけきと信と云  
けきのうりける紙す信とけきと末と云ふは  
うきと云ふは信とけきの信と云ふは信と云  
あはれと云ふは信とけきの信と云ふは信と云  
あはれ佛と云ふは信とけきの信と云ふは信と云  
なり菩薩常不輕の法身成具と云ふは信と云





おおわく人又持て世に用らるるやそく心  
 とほしきおるやそく妖ぞなせるわら石佛にわ  
 けそそふいふこ子孫となさ亡者の安念ふら  
 て天地の間に流轉せり亡魂時ふ途に氣につま  
 或る瘡鬼と相見又る疫神とたり人びとをば  
 ゆかりせしむる世に瘡疾疫病を傳り傳  
 時をき陽ふたまたる石塔と繩とくあがり或  
 半るに枯骨に門戸にけく甚る鬼とせれし  
 けりあひあり或人の云くそれ佛とあり病の  
 物事何云く是れ仏とせらるにあらはる石塔に











とけらるゝとわやしひり交れらるゝ事におは  
其外家え少くと礫所事度くありいなる  
御とゆしそのにけり鬼角におくくゆりとのへ先  
生より天狗といふ名をもゆにしまへんぐ權を  
歎の美名より物と傳ふとい類にわくは又星の  
名よ天狗星やといふは史記天官書天文志等に  
見ゆといふなり星といふのりぐは鬼魅といひ  
魔障碍なるのふ所害得に下る物のなりと  
是皆深山幽谷よりひ魑魅の類なりむく所にて  
ありを多し多力なる物あり其ゆゑに試みるる

狐は百倍より木賊打虎とゆゆは風面張りを  
はし大小の才現なり類々和名集はあましく  
と和名く歎れぬ入るにけりよにけり天竺唐土  
の魔れ類といふやとありさめきでそれ山谷の  
氣より生るる雨のみのなりとさうさう試みる  
見ざるはひものなりより変化地なればとせ世俗  
を高坊深良坊ともいひく山伏のやうに云々  
いふは任事をも思ひえれ山轉るなりといふ  
任事なすはなれば月お三福川の音とありて無  
所振るるといふ人間とて思ふる氣には





此のほけりてやせ八極九域のびあむとまれど  
 といふるは紙あてていふなれどさくば妖性  
 らば人倫をさよはわるは先純法のまより生る  
 なまばるなりとあはばさそたじと氣のわら  
 せりやあむを御とするく公や侍んされば  
 浅る御のふしとわたりなり又天物候云  
 家あむを狸のふしとわたりなり又天物候云  
 狸と教へ煮くうひてうし先言なむとれど  
 そよとのぼる屋じよ著因集に思ふる孔子の悦  
 にて怪力乱神をりとの里あむるおなれバケ候の



才臣

轉作の事付省陌の事

けふより同じ云世は銭神と云ふものありてたゞの  
 内に腐るものなり此の氣一つを争ひて  
 人家の形をけしめさるる人刀銭ぬ  
 こそ切もひきば銭多きは此の氣一つを争ひて  
 けふより同じ云世は銭神と云ふものありてたゞの  
 内に腐るものなり此の氣一つを争ひて  
 人家の形をけしめさるる人刀銭ぬ  
 こそ切もひきば銭多きは此の氣一つを争ひて

必<sup>かならず</sup>生<sup>な</sup>ず陽<sup>やう</sup>の橋<sup>はし</sup>へ月<sup>つき</sup>となり臨<sup>み</sup>の橋<sup>はし</sup>へ月<sup>つき</sup>と通<sup>とほ</sup>金石<sup>こんせき</sup>  
 此<sup>こゝ</sup>橋<sup>はし</sup>へ星<sup>せい</sup>と臥<sup>ふ</sup>さへ鐵<sup>てつ</sup>りし人<sup>ひと</sup>お小<sup>こ</sup>いばる抱<sup>かか</sup>なり一<sup>ひと</sup>た  
 そ集<sup>あは</sup>るに及<sup>およ</sup>くも橋<sup>はし</sup>かたおとけり又<sup>また</sup>同<sup>どう</sup>云<sup>い</sup>く  
 子<sup>こ</sup>母<sup>は</sup>後<sup>ご</sup>も尸<sup>しかばね</sup>の重<sup>おも</sup>くはしめる成<sup>なり</sup>事<sup>こと</sup>はく果<sup>は</sup>云<sup>い</sup>く是<sup>こゝ</sup>  
 仙<sup>せん</sup>徳<sup>とく</sup>のむろはして青<sup>せい</sup>より尸<sup>しかばね</sup>に倚<sup>よ</sup>るを泣<sup>な</sup>く校<sup>がう</sup>  
 とお輝<sup>あき</sup>と似<sup>に</sup>る虫<sup>むし</sup>のういこのごとくなり子<sup>こ</sup>氏<sup>し</sup>某<sup>ある</sup>村<sup>むら</sup>ふ  
 生<sup>な</sup>ずをさるやれは母<sup>はは</sup>必<sup>かならず</sup>る子<sup>こ</sup>某<sup>ある</sup>村<sup>むら</sup>ふ  
 母<sup>はは</sup>血<sup>ち</sup>鉄<sup>てつ</sup>と腐<sup>くさ</sup>り八<sup>や</sup>土<sup>ど</sup>の所<sup>ところ</sup>なり子<sup>こ</sup>氏<sup>し</sup>血<sup>ち</sup>鉄<sup>てつ</sup>と八<sup>や</sup>土<sup>ど</sup>の  
 後<sup>ご</sup>おぬれその一<sup>ひとつ</sup>方<sup>ほう</sup>に鐵<sup>てつ</sup>りし市<sup>いち</sup>におく抱<sup>かか</sup>鉄<sup>てつ</sup>重<sup>おも</sup>  
 子<sup>こ</sup>母<sup>は</sup>鉄<sup>てつ</sup>のぬれは母<sup>はは</sup>必<sup>かならず</sup>る子<sup>こ</sup>氏<sup>し</sup>某<sup>ある</sup>村<sup>むら</sup>ふ



新しきつり子母錢成宣惠會と唐の八使に  
とびのけ侍りされど家物やうきを佐公にさすとす  
ゆるぐを殊の起るを弁れあさる天ふなぞ人  
肉のあなりへ地あさるごとくも海にわくへ女媧氏  
の云はゆるもやうにわ物やうきを宣惠會の時よ  
務めけつとやうき又八開基太平万歳勝宝元宝通  
宝なるくねほやうきとらにじあくと年号改加てそ  
名とより開元清和の類をなりじしより新  
勢出果てき古きとらにじあくと又新舊た  
小月ひらけ政とわり皆そ時のほしにににり

カシこのさるやん  
たつて新錢よあさるなりはしやん智あつとせあつ  
なりもちほふぬほく思ひされ大類と思ふたつと  
甚あさるよあはれと集りきくちとあは  
うきとむきと一巻の宿ととらうきと  
とに私に務事をほふと林制なり金勝新錢ハ  
名をさるたつたれど私とと務なりじと侍りへ侍る  
や銅抄ハ通用の宝なり金勝私の宝なり  
なりとむき人の富饒貧乏とと令けきやうき  
銀光無宝と務ハ惟り貧うらんあ人力減りて  
貧富と自在とと人よく天は勝るなり量りて天



小衛<sup>こゑ</sup>ひや又<sup>また</sup>辨<sup>はな</sup>の敷<sup>しき</sup>と九十<sup>こじゅう</sup>六<sup>ろく</sup>毎<sup>まい</sup>にきし事<sup>こと</sup>いづ<sup>い</sup>の  
時<sup>とき</sup>より定<sup>さだ</sup>つともとそ来<sup>きた</sup>るし唐<sup>から</sup>あくる時<sup>とき</sup>とふは

より九十多或八十多又十七多なりとあり  
 省陌と云ふ明楊升菴の丹鉛總錄又見たり

才

貧乏神

韓退之送窮文范文正公批序

阿久の云云也。さういふハ、阿久わて、此をいめて  
 まわし者何ゆゆ、あまたく ひかり とも よ い は る ぐ と く と き こ  
 と、い は る ぐ と く と き こ  
 らじと、い は る ぐ と く と き こ  
 飛肩の上より、あ は る ぐ と く と き こ  
 飛肩の上より、あ は る ぐ と く と き こ

[illegible]



斗也諸方に貧乏神はとあるむたう人々に  
 ちと新妻神とものなき方よりけしむるなり  
 雨多し漲るあつちよりハ彼者奥よりくわとて  
 うてこりて事此れが若し神はたそふあつた  
 をたうりてけしめと者にくも座とつけきバ  
 先生海といふくは神と病鬼と名付る主人の  
 貧富は天命の稟受のあつて落さぬれバ賢  
 君子は法を以て智を施すといへど如何なる  
 りねし孔子新妻曾参京意の類あげていふ  
 魚とて然とある者より強く貧乏より富と





救ひとして、（その）名とくじ名とるのほ大刑戮  
（むら）  
 にあつたにふい天全紙知はて幸紙新う極一  
（その）  
 如や一書作の老い今此説もこわびむけき  
（おちけ）  
 を佛家にいふ極ろ三世の説ともく過云の宿業と  
（ふ）  
 云ふも害わるにわづかゞ天運によつたれ神也  
（つゝまへ）  
 司ふとあるが然事ぞ唐の韓退之よりせし大儒を  
（ていり）  
 正月晦日に酒肉との勢で又孝一篇とばかり毎  
（よめ）  
 日々寝起とありあはしうも一生が苦不仕合のと  
（しらべ）  
 打續ゆれ宋代陳簡齋といふ詩人の詩も韓愈推  
（さ）  
 究不玄樂天待富々不來と仰りしや又宋の范  
（究）

文芸公と云ふは宋初の人なりて字同才翁といふも  
いまだぬじく人小施の後に杭州の事漢職ふ  
給ひて家富門衆あり絶ふそ女にさめてまわき  
浪人ありて渡世れあつたなるをけせば范文正公を因  
なりたるや合方に然るやと思ひて遂に杭州にい  
たりて此の紙嘆し六文云ふりやうり人又拙じ  
まぬむかれど太常よりとせんとす所のなくん  
は折當六月のはなれば文正公作けるハ高交れ  
税は麦と穀万石おこめし紙せがまこと来ぞしく  
ころち少くして賣にむぢりけ者油ハ金



せわふぼじとて約めよみ思ひくりさめふむ  
 ざとせれくに書をさるるあは古々と無じふ親  
 ちんちんくは者にのらふわえてゆりゆとりされ  
 一れ文芸と彼女もと力紙おしぬさくそほ  
 文正公作出るうへけ別は晋の王羲之の石碑あり  
 是と石よりにうけ時を授と貴重一付ふる書  
 原よりせられと事人の是とうけりあさうぶ  
 ちんちんくは者にのらふわえてゆりゆとりされ  
 とうちあふるさ紙硯とそとのふい流りゆく  
 の目打めよとてそを色に紙付きし硯の点

この西へ文芸とて依りにおりふと定つるうと書  
 像は去氏とて来てり像う今夕像は夕迄して雷  
 の石碑一箇はう面晴くは見え八石碑微塵にふ  
 ちんちんくは者にのらふわえてゆりゆとりされ  
 の交さうとてと像とわけてふとじくそくか  
 るり像りぬ流よりなりなり文芸とて交さるにち  
 かく念法と紙とてとそ教のささまりふは是跡ふ  
 と及ぶぬりなりや東坡が一夕雷轟鏡別碑と  
 像りしとけりてとてとてとてとて

才六 山城の事 付 休庵の事 但 文正公















母のむらりと相好くあらばしとてそむく  
思はるるなりとてそれのむらり  
とにむらりて見ゆるなりとてそれのむらり

才八 洗心草猫まこやれる付観音は中世事

かへ人の心洗心草に祿に海とておれよ  
あるとてしるしおれよとて彼をた  
里まはをれしとて事なりしなり  
猫の化よりれしなり不義と云れん  
いふくちる祿に海とてなり祿と  
と略しおれよとて思ひぬなりとて祿

たはしとてわたりし祿なり洗心草とて  
せりし祿に海とて思ひぬなりとて  
猫の化よりれしなり不義と云れん  
いふくちる祿に海とてなり祿と  
と略しおれよとて思ひぬなりとて  
たはしとてわたりし祿なり洗心草とて  
せりし祿に海とて思ひぬなりとて  
猫の化よりれしなり不義と云れん  
いふくちる祿に海とてなり祿と  
と略しおれよとて思ひぬなりとて



大小と氣味王臨況身れぼた皮の夢も  
 雅樂とみろ個子わりむとこ地にええ人  
 若れ猶あくと氣とじりむむお畜をけた又  
 氣うりとゆびとるは馬飼うんふるあ  
 又著同集は觀ある中流家の庄にやう猫  
 と飼いふと玉とええと秘苑のち力とえ出  
 玉はつぎけた件の力とくく何地やん近矣  
 めんく乗道天のけさおもひぬあさけ猫魔の  
 變化とやん沙汰ゆりとあつたり先角怖れはこ  
 百拍浮漂刺事と三強